



*学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

8月6日は、広島「原爆の日」・被爆81年

広島は6日（木）、被爆81年の「原爆の日」を迎えました。原爆投下時刻の午前8時15分に合わせた平和記念式典には、ご遺族や高市首相らが参列しました。広島市の小学6年生の代表2人が世界へ向けて発表した「平和への誓い」の全文と、広島市長による「平和宣言」を紹介します。

【平和への誓い】

もしも「大切なもの」が一瞬で消えてしまったら、どんな気持ちになるのでしょうか。

私たちが笑い合っているときにも、尊い命が失われている現状があります。
今もどこかで、当たり前前の日常がうばわれています。

ぼろぼろになった制服。黒く焦げたお弁当箱。
それは、当たり前前の毎日を生きていた証です。
昭和20年（1945年）8月6日、午前8時15分。

たった一発の原子爆弾が、人々の暮らしを、人生を地獄に変えました。

髪は焼けぢぢれ、全身の火ぶくれが破れ、火傷した皮膚が垂れ下がった人々。

「痛いよ。苦しいよ。」「助けて、お母さん。」「死にたくない。」「助けてあげられなくてごめん。」

死んでしまうつらさ、生き続ける苦しみは、想像することさえ恐ろしいことです。

私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。

目をそらさず、知ろうとすること。

悲しい現実でも向き合うこと。

そこには、「生きたかった人々」、「生き続けた人々」の思いがあります。

私たちには、広島のかどもとして、行動する責任があります。

相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。

平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。

一人一人の小さな行動が、平和への後押しとなります。

平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

こどもである私たちも、その一員として平和への一歩を踏み出します。

かけがえのない「大切なもの」を、確かな希望を、未来へ届けるために。

令和8年（2026年）8月6日

こども代表

広島市立高須小学校 6年 柿崎 由宇

広島市立高南小学校 6年 河野 和希

【広島市教育委員会HP参照】



【平和記念式典で「平和の誓い」読む小学生／朝日新聞 WEBより】



「平和」と聞くと、国同士の大きな約束や、どこか遠い世界のニュースのように思えるかもしれませんが。けれど、平和の第一歩は「今、自分の周りにいる人を大切にすること」から始まります。誰かを思いやり、対話によって互いを理解しようとする姿勢こそが、平和な世界をつくる一番の力です。歴史を正しく学び、過去の悲劇から学ぶこと。そして、目の前にいるクラスメイトや家族を大切にすること。皆さんが浅野川中学校で過ごす毎日の中に、平和をつくる小さなヒントがたくさん詰まっています。この機会に、「自分にできる平和の一歩」について少し考えてみてください。

【平和宣言】

被爆から 81 年が経過した今、私たちが暮らすこの地球上では、核を脅しの道具に使った軍事侵攻や国際法をないがしろにする大国の横暴な振る舞いが繰り返されています。また、今年開催された NPT(核兵器不拡散条約)再検討会議では、過去 2 回に続き成果文書が不採択となりました。その原因は、他国に責任を転嫁し自国の行動を正当化する為政者の言動にあります。また、こうした為政者の言動は、NPT が定める義務を無視するに等しく、世界の平和と安定を根底から揺るがすものです。

このままでは世界中で不信の連鎖が進み、欲望がむき出しになっていた第二次世界大戦の時代に回帰してしまいます。核兵器の非人道性を軽視し、自国の繁栄のための武力行使を認めることは、暴力を伴う報復の連鎖を許容し、第三のヒロシマ・ナガサキを作り出すことになりかねません。



【平和記念式典「平和宣言」松井市長／広島市 HP】

皆さん、ここで再度、あの惨禍を生き抜いた被爆者の体験に耳を傾けてください。当時 16 歳だった女性は優しくした姉のことを振り返ります。まるで骸骨のように皮膚が崩れてなくなり、唇のない口から歯がむき出しになっていた姉の顔は、悪夢のようで信じられなかった。また、3 歳で被爆した後に次々と病に襲われ、55 歳で白血病を発症し原爆症と診断された女性は、いつも次にどんな病気がくるのかという恐怖と隣り合わせの日々だったといいます。また、別の当時 9 歳だった男性は、多くの一般人が犠牲になっているロシアによるウクライナ侵攻を目の当たりにし、争いが起きない世界を創るため、自分の中の争いの心を乗り越え、相手の考えを受け入れる気持ちを持つてほしい、とりわけ若い世代には、そのために身近なことから考えてほしいと訴えます。

市民社会は、こうした被爆者の声や被爆者の思いを伝承する活動に鼓舞され、核兵器廃絶と平和を願う行動の輪を、国境を越え世代を超えて広げてきました。しかし、多くの為政者は現実的な対応として核抑止力に依存し続け、暴力を肯定する国際社会が出現し、核兵器のない世界は遠のくばかりです。戦争の記憶が薄れることで核兵器の使用が容認されかねない時代を生きる私たちは、今改めて、国連を創設し核兵器廃絶を決意した過去の教訓を学び直す必要があります。そして、一人一人があらゆる暴力を否定し、核兵器廃絶という理想を理想で終わらせない国際社会を創り上げるための行動を起こす必要があります。

そこで、若い世代の皆さんに提案があります。価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください。そうすることで、嬉しさや楽しさ、夢や希望を共有することができます。既に世界の多くの若者が、広島を始め様々な場で被爆の実相を学び、交流を深めています。皆さんも平和のために日常生活の中でできることを実践し、自らの思いを発信することで、その行動の輪を広げていってください。こうした取組は、お互いを認め合う平和文化を世界中に根付かせ、核兵器廃絶を国際社会の常識にすることにより、為政者が核抑止力に依存することを認めない環境づくりにつながります。広島市は、平和首長会議の 8,589 の加盟都市と連帯し、平和文化を世界中に広め、次の世代に伝える活動を後押しするとともに、「ヒロシマの心」を世界に訴え続けます。

世界の為政者の皆さん。市民社会は一日も早い核兵器廃絶を願っています。いったい、いつまで失望させ続けるのですか。核兵器の使用が人類に壊滅的な被害をもたらすこと、そして核軍縮・不拡散は、多国間で取り組むべき課題であることを十分理解されているはずです。また、核保有国の為政者の皆さんは、核軍縮に大きな責任を有しているのですから、自ら範を示す必要があることを十分認識されているはずです。世界の為政者の皆さん。自ら被爆地を訪れ、ヒロシマ・ナガサキの悲劇と真剣に向き合い、被爆者の平和への思いを受け止めてください。私たち市民社会は、為政者の皆さんが被爆地から核兵器廃絶への決意を世界に発信し、そのための政策を実行することを心から待ち望んでいます。

日本政府には、日本国憲法が掲げる崇高な理想を深く自覚し、国際社会において名誉ある地位を占めるための歩みを止めないでいただきたい。とりわけ、各国との分断や対立が生じかねない厳しい安全保障環境にあるからこそ、国民に犠牲を強いることのないよう、したたかに粘り強い外交に徹する中で、国際社会の平和と安定に向けて貢献し続けることを表明し、実行していただきたい。そのためにも、まずは今年 11 月から開催される核兵器禁止条約の再検討会議にオブザーバー参加し、そして、一刻も早く締約国となつていただきたい。また、平均年齢が 86 歳を超えた被爆者の支援策については、今なお抱えている様々な苦しみや苦悩に寄り添い、在外被爆者を含めた被爆者援護のあり方を踏まえた上で、その充実を図ることを強く求めます。

本日、被爆 81 周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、力を尽くすことを誓います。そして、改めて市民社会に呼びかけます。世界中の皆さん、被爆者の切実な思いが込められた「ヒロシマの心」を胸に、共に行動することで世界を変えていきましょう。

令和 8 年（2026 年）8 月 6 日
広島市長 松井 一實

世界では今も対立や争いが絶えず、核兵器の脅威や戦争の悲劇が続いています。国際社会の複雑な動きに「自分一人の力では何もできない」と感じるかもしれません。しかし、平和は誰かから与えられるものではなく、私たちの毎日の行動で創り上げるものです。

学校生活の中で育む「互いを認め合う文化」こそが、暴力を許さない平和な社会を支える土台になります。生徒一人ひとりが目の前の仲間を大切に、対話を重ねる「平和の担い手」として一歩を踏み出すことを心から期待しています。